

## 空気のように、美術を身近に

## ～鑑賞学習の充実を目指して～

伊奈町立小針中学校 教諭 藤村 摂子

### 1、はじめに

中学校における美術教育の大きな目標は、「表現（作品を制作することが中心）と鑑賞（さまざまな美術作品を味わう）の幅広い活動を通して、創造活動の喜びを味わい美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、美術の基礎的な能力を伸ばし、美術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。」です。ともすると、「表現」活動が中心になりがちな美術授業ですが、もうひとつの活動である「鑑賞」が“美術好き”に導く役割はとても大きいのです。

文化的なものや美術的なものを味わうことや、美術的な場所や空間が作品制作と同じくらい好きだった私は、中学校美術教育の中の活動に大切に取り組んでいます。

### 2、実践内容

#### (1) 授業の中の鑑賞活動

##### ① 生徒相互の鑑賞会

作品完成後、相互の良さを認め合う鑑賞会を行います。班内鑑賞を行ってから、全体の鑑賞へつなげます。各自のお気に入りの作品に観点別にシールをはりあうこともあります。教師の一方的な評価ではなく、他の生徒から認められる、という自信が次の作品作りにつながります。



##### ② テーマを決めて、いくつかの作品を鑑賞しあう鑑賞活動

「人」「抽象」「心の中の情景」「パワフル！」など、テーマを決めて、古今東西、時代を超えた作品をいくつか選び、比較や特徴に思いをはせながら鑑賞しあう授業。廊下に掲示し、鑑賞箱を設けて、各自が感じたことを投票し、それをもとにして授業を行うこともあります。美術的なものに関心を持ち、味わう視点の幅を広げます。

##### ③ 歴史・文化・宗教などをふまえた人間理解を目標とした鑑賞活動

美術の評価観点には、「知識・理解」という項目がありません。しかし、過去の偉大な美術家は多くの名作を残しています。作品に込められた作者の思いが、長い年月の間見る人の心を動かしているのです。人間理解を目標として、著名な作品を味わったり、芸術家の生きざまに触れ、美術の歴史を学ぶ授業も取り入れます。知識理解のみの授業に終始しないように、講義形式にはしません。修学旅行前の仏教美術授業は毎年3年生に好評です。

(2) 美術教室から、学校内に広げる鑑賞活動

生徒は美術授業が終わった後も、学んだことや感じたことを忘れず、時には自分の作品に生かすために構想を練ったり、発想を広げたりします。学校内を美術的な空間にすることは、そうした生徒の感性育成を支援できるのです。生徒の作品、著名な作品、構想の助けになるヒント。さまざまな学校空間（美術コーナー、廊下掲示など）に美術を浸透させることも私の仕事です。

また、本校では、体育祭や合唱コンクールなどの行事の際に、美術部が大型の布絵を制作しています。布絵は卒業式や入学式でも体育館を飾り、小針中の伝統となっています。

(3) 学校から、地域や家庭に広げる鑑賞活動

学校の外へ美術教育を広げる活動も始めています。埼玉県は、公共の場所に児童生徒の作品が飾られたり、駅や道に展示が行われるなど、図工美術作品の地域への広がりが活発です。身近なところで子供たちの表現活動に接し、美術全般に触れ合える機会が増えていきます。私も、生徒とともに学校の外壁に伊奈町のアピールを描いたり、商業施設に大型の布に描いた絵を展示してもらったりするなど、地域の方々と協力しながら活動を実践しています。

今後はさまざまな公共施設への作品の貸出展示なども行いたいと思っています。



近隣の商業施設に展示中の大型布絵作品



中学校の外壁に描いた伊奈町紹介の壁画

### 3、終わりに

中学校を卒業した後、高校では芸術科目が選択制になるなど、多くの生徒にとって美術の授業は必須ではありません。義務教育を終えた生徒たちが生涯を通して美術に親しみ、豊かな情操をはぐくんでいくためには、小、中学校での図工美術の役割が重要です。「表現（制作）」活動とともに、「鑑賞」活動を充実させることが、美術を個人の生活や生き方に生かしていける「眼と心」を育てることにつながります。

卒業するときに、または、人生のどこかで、“美術ってなんだか面白いね。楽しいね。”と心がつぶやく……そんな人作りを目指しています。